

【事業名】
（佐賀県鹿島市）

【団体名】肥前鹿島里山未来拠点協議会

事業の背景・目的

鹿島市には、多良岳山系の自然性の高い樹林地と、ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」など重要な自然環境が存在する。しかし、近年の大雨災害により、双方とも多くの崩壊や流木による被害を受け、今後の気候変動の進行によっては、想定を上回る自然災害の発生が予想される。このような中、森林の持つ防災、減災の役割が注目されているが、担い手不足等の課題によって、周辺の森林の管理が行き届かなくなりつつある。この事業で、森林及びこれらが連続する土地利用を、崩壊や流木からの緩衝地帯として持続的に利用できるよう、グリーンインフラから始まる地域の自然資源の活用およびストーリー性のあるビジネスの確立、生態系の保全を目指す。

事業の内容

・実績報告書（別紙10-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① みかん荒廃園を活用した放牧牛の実証実験地のモニタリング調査

- ・牧草地の植物の多様性やゴミムシ等の調査、付近の水辺の生き物調査
- ・草原化した農地の土壌の分析調査（CO₂含有量調査）



事業② 海の森事業の効果検証

- ・土砂災害があった場所をマップ化し、植樹された場所との比較
- ・表層崩壊に強い樹種の選定と植樹の検討

事業③ 自然環境資源を活かした地域振興の取組拡大

- ・佐賀大学と連携したヤマネ探索ツアーなど生き物調査を兼ねた活動
- ・猟友会による「里地里山の伝統的な利用・管理手法」の再評価

得られた成果

・実績報告書（別紙10-3）を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）

自然資源の持続可能な方法での活用、生態系を活用した防災・減災の効果検証（海の森事業）、農林業の振興（里山の適正な管理）、里地里山の伝統的な利用・管理の再評価（狩猟ツアーでの山の伝統的な管理方法の再確認）、保全活用につながる新たな利活用手法の導入（みかん荒廃園での放牧牛）などに加え、近年行われていなかった多良岳山系の希少生物の生息についても調査を行い、絶滅危惧種や貴重な種が生息していることが確認できた。今後はこれらの整備地を結ぶエコツアーを開催し、経済を域内で回す仕組みを構築する。各整備地で行った生物調査の結果を令和5年度策定の保全活動の計画につなげ、保全と活用をつなげる。この事業は地域が主体となり積極的に行われているため、今後の広がりを持続可能な活動が期待される。

